

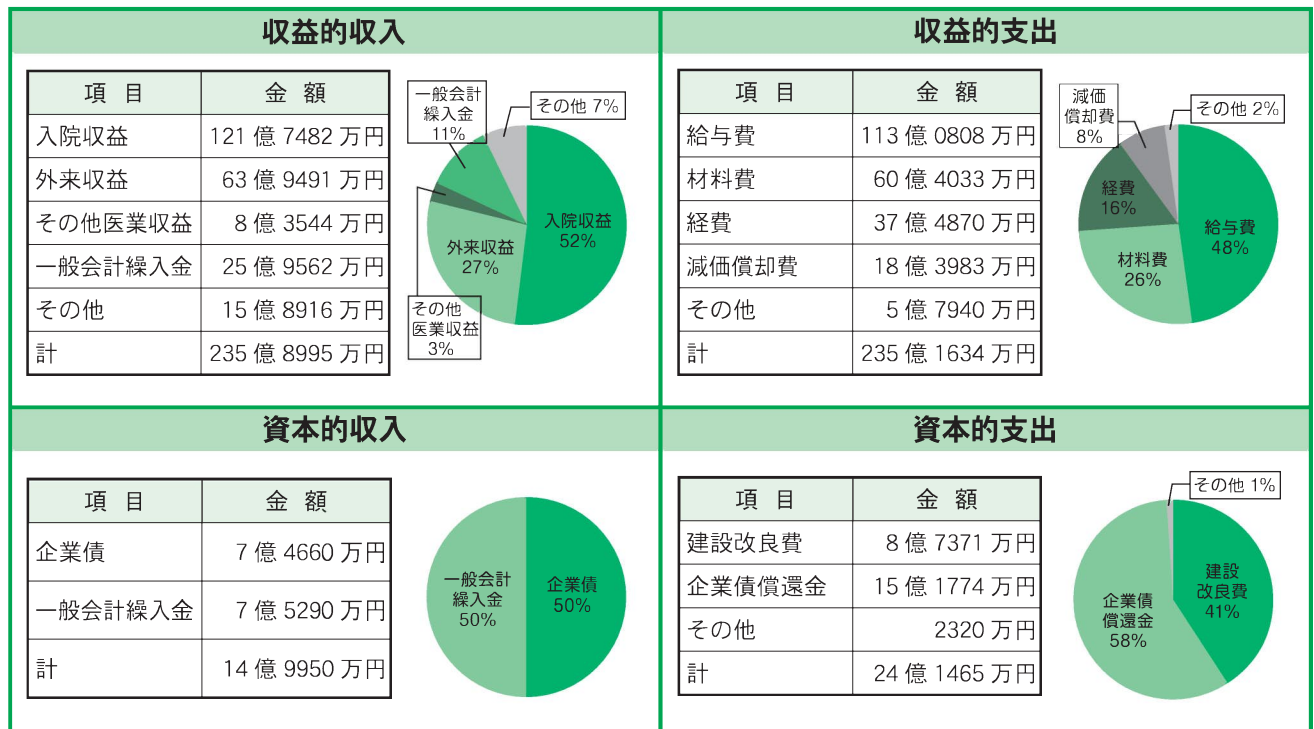
予算概要

国の社会保障費抑制の方針による昨年4月の診療報酬マイナス改定や、本年10月からの消費税率引き上げなどに伴い、医療を取り巻く環境はますます厳しくなります。このような状況の中で、平成29年3月に大崎市が策定した「新大崎市民病院改革プラン」や、平成30年6月に策定した「大崎市病院事業病院ビジョン」に掲げる各目標の達成に向け、病院事業運営を推進する予算を編成しました。

収益的収支予算は、収益総額を235億8、995万円、費用総額を235億1、634万円とし、7、361万円の黒字予算となりました。本院は、県北の基幹病院として500床フル稼働を実施し、高度かつ急性期の医療を提供しながら、医療の質の向上に努めてまいります。また、岩出山分院では、昨年度に建設したリハビリテーション施設の供用を開始するとともに、鹿島台分院に続き地域包括ケア病床の稼働により、地域包括ケアシステム的一端を担うことで、患者さんが安心して在宅復帰できるよう取り組んでまいります。

資本的収支予算は、収入総額を14億9、950万円、支出総額を24億1、465万円とし、平成33年度の開設を目指し、新鳴子温泉分院の建設工事に着手するとともに、本院のMRI(磁気共鳴画像撮影装置)などの医療機器を整備します。

本年10月からの消費税率の引き上げの影響もあり、厳しい財政状況ではありますが、本院、分院及び診療所の連携体制の充実を図り、病院理念である「市民が安心できる医療の提供」を念頭に、引き続き健全経営と地域医療の維持確保に努めてまいります。



用語解説

【収益的収支】

医療サービスの提供やこれに付随する事業など、病院の1年間の経営活動によって生ずる収益を「収益的収入」、また、これらの収益を生むために要する費用を「収益的支出」といいます。「収益的収支」とはその差引額のこと、1年間の病院の経営成績を表します。(収入が支出を上回れば「黒字」、下回れば「赤字」です。)

【資本的収支】

医療機器の購入や施設整備に要する支出、また、医療機器購入や施設整備のために借入れする企業債の元金返済に要する支出を「資本的支出」、その財源となる企業債や一般会計からの繰入金を「資本的収入」といいます。